

ひません

第一回研究集會の
もろ方について

すでに準備打合せ会において相談し、また各地の会員の方々の御意見をうかがひ、そして決定したまうに、来る十月廿五日（十月十二日）第一回研究集會をもちつたのである。しかしこの第一回研究集會における共同討論の主題は「健地健康の村落社会に与えた影響」であつて、その主題の取りあつたことについては討論委員を中心に擔任会員の方々の意見をもちつかひ、いしつ、成案を凝りである。したがつて、どしどし討論委員決定に、第一回研究集會の主題なる右の題目について御意見をよせていただき成案をえたいのはもちろんのこととして、その討論の討論を中絶して行われぬ研究集會の具體的なもろ方もそろそろ考えなくてはならぬといふことになる。このもろ方に就いてはいろいろ考えられるわけであるが、一の案を次に示して、会員各位が案をもち

願するようになさうしたい。

それは、会員のうちから報告希望の方に申出ていただき、それをもつたり、四つなりを第一討論位と、を要領して採録してもらひ、これを会員全体で討論するといふ形式をとる。会員全体が一応討論については御意見をあるわけであるからこの討論の傾向はかたまり可くする必要があり、三討論はぜひとりたいと思ふ。また健康の時には、健康の要の上るようなことにはいいし、さらに今後の会の體格についても盛り込みたい。

以上のような討論中二であるとしても何かと個所についてはいへるべきことがあるから、もつとよい形式も考へられよう。そういうことを本報に御覧りいただきたいと思ふ。御意見は「研究集會のちか方をうかほしたい。同様の人々のあいつといひ仙台における第一回研究集會を会員の一人として総り望み、采しものじしたいと思ふるからである。

つくるものでありはせん。それは、会員すべてがつくるものであり、その態度を反映し、共同の力で、日本の村落社会健康を盛めて行く過程の基物としてうまれなければならぬと思ひます。健康委員の一人としての私は、このことをめたく感じ今後の年報も三集以下に会員の努力の結晶を会員全体の強力な支持のちびに、とうか、その意味におきましく今年度の健康報告の左の研究、その世の研究など、三集への御意見というところをおおえながらの盛めていただきたいと思ひます。たとえなくたうたうなくとも、一、走れた才がまりにままつてい事すし、そのようにつとめますか——日本村社会の健康委員世あどむけられるはあり、必す第一とありあけなければならぬよう今年報二しようではありませぬか。健康委員は健康委員としての義務もあつては、そのために心をつくさばいふが、健康委員としての本にする世活とする二十きないのでありまして、健康委員がなからるかどうかは、健康委員の我致した学問的精力にかかっているのではありません。いろいろ健康委員の健康を盛めて来ること、健康委員が健康委員に採録されること、御持して



本年度の宿題「農地改革の村落部会に
 浸透した影響」を、どう具体的に取扱つ
 て行くかについて、宿題委員会は、前後
 二回論議してまいりました。その論議は、会
 員の御意見を中心に、各種資料がとりま
 とめ休をするということを基本としてま
 せしたし、その間の様子も、この「研究
 通達」にできるだけ詳細に御報告するこ
 とに心をかけた次第です。これらの裏につ
 いて、色々ご意見にみたないことはかり
 で御報告を致し、病室にも届けています
 御写までにのせましたよう、宿題委員
 の策がひとまず浮び上りました。しかし
 ながら、諸君に報告したものは成果と
 は考えていませんし、もちろん宿題委員と
 しては決まりましたと報告しておりません。
 さらに食糧各位から御意見をいただいたま
 あるいは委員会で話し合ったものとはか
 らりながら考えを具体的に提案としてお届
 かせ願ひ、その上で宿題委員会として決

定したいと考えています。こうしたこと
 から、是非食糧各位の御意見のない御意見
 を考慮に本部宛断せられることをお願ひ
 致したいのです。ところで、夏の休暇を
 近づいた昨今、なるべく早く宿題の取扱
 い方を決定する必要が及びます。したが
 つて、来る六月二十九日の月曜日午四
 時から東大赤門農学士会館談話室におい
 て宿題委員会と年報委員会と一語に行い
 この時にもとめたいと願ひています。そ
 してこの委員会にはいろいろ御意見を
 つて居られる食糧各位に多数御出席いた
 さま、そこで活発に討議したいのです。
 宿題を中心とした共同の歩みがこの研究
 会の主旨であることはいろいろともないこ
 とでしよう、それには、食糧全前の熱心
 と討論の上で達成されなければならぬ
 と考えます。来る六月二十九日の委員会
 には、御意見ををお持ちの方は全部、とく
 にそうでない方でも御都合のつく方は
 非御出席下さることを加筆致します。尚
 宿題の進捗にみられる方は、廿九日に同に
 合う兼に、本部宿題委員宛紙、御意見を
 およせ願ひたいと思ひます。

未知なるもの結び合い

「村研通信」にのりて御便りを頂き、
 宿題に寄じています。御主張通り、何々
 を高す者として、年令、地位を捨て、
 共にセツサダクマシ合うべきだと願ひて
 います。そのことにより未知なるものが
 く結び合ひ、研究に積極的であることに
 れは大成功であるかと存じます。現在一
 方だけであるのは、やはりよくいつたキ
 ムワグであると思ひます。人間の能力
 には限界がありましようし、さういふ限
 界を連合を強める必要があると願ひます。
 最近の氏から預じた手紙の一部です。
 そして〇次と松とは、通信ののりとの
 縁でこの未知なるもの、堅い結びつきに
 その一步を踏み及ぼして居るのです。年令
 と違ひます、そして、住んで居るところは
 急行列車に乗つて一晝夜とか、ある程は
 たつています。恐らく研究熱心と願ひて
 はなれでしよう。それにも拘らず〇氏の
 通信に載つた主張、それにのりての
 縁の未知なるもの、それから一ヶ月と
 た、なほ間に、現在の研究結果の交換に
 なり、初めし合ひの手紙のやりとりにも
 で絶望をみられたのです。へ未知なるもの
 望く結び合ひ、なんと快い響き持った言
 葉でしよう、これだけである。村研通信、
 次第次第は大きいといえるのではな
 りでしようか。
 (B)

反省と頼いをかねて

通信連絡委員会

「研究通信」が村居社会研究会の中で待つ意味は

- (一) 会員の連絡、情報交換。
- (二) 会費相互の自由な討論の場
- (三) 会費の便宜化

の大体三つに要約できると返します。そこで今迄私共は会費各々が御送付頂いた記事をそのまゝすべて掲載することに努め、研究団体であるという美から諒解なり主張ひりばこれをのせぬことにして居ります。

然し殊に残念なことながら「三号新聞」に於てしまひやうほ欄外が出て参り、私共の力の不足を痛感している次第です。即ち本誌記事が紙面の多くを蔽い、自由な討論を政策的に提携して行くという方針をとりませんでした。これは明白くよいものとなること迄至てあります。

この「研究通信」はあくまでも研究者の通信連絡紙であるならば、もっと多く

の研究の成果や、報告、予定(計画)、疑問、討論が紙面をうめなくてはなりません。この会が村居研究の方法的統一なり、觀念の統一なりをのぞんで居ります以上、こうした記事は必要かくべからざるものでありまして、もしこれが無いと全くつとめけのからしにやつてしまふわけでありませぬ。

そこで私共は今までの非力を一てぎして、特筆さえも出していくような決意をえ持ち始めました。へたとそは講組組合と同族結合に願して等の) そつした私共の反省とこれからの方針にあたり、会費の匿名にこの上ない場力をお頼りする次第です。

具体的な提案として友にか、びます各項について願心、函索をお持ちの者はすみやかに記事をお送り下さいませよう。御願ひ致します。そうすることの色々の御社判にたえる途だ(会費が一体に)つて考ふるからです。

- (一) 「研究通信」についての希望、懇願
- (二) 自己の方法的な問題、疑問、問題の提議

- (三) 今年度の研究、調査の主題と予定。
- (四) 各大学に於ける各道市におけるロカールカラーを持つたルポルターージュ風のもの(これは一欄を設けて持廻りにします)
- (五) かり版にひれるような、或はそれ以上のであります。私共は私共の考えを以て紙面割付けの一定のフォームを作り、編集部の承認とインシヤテイスを確立したいと考えて居りますので、願ひのなりぬいて「通信」とする願、とかく研究者にかけている協力と同族の精神と自主的行動力とをこの「研究通信」では試色できませぬ願ひをお頼ひ致します。(C)

六月二十九日

村居大宛通信連絡委員会

於東京高等米門醫學士金鑛談話室
 会員各位の御出席を望みます。

第一回研究集會

十月十日(土) 日本社会学会
 於 備台 東北大学

十月十二日(月) 村居社会研究会
 第一回研究集會

於 備台 東北大学

宿題と杖又の夏の

中野 卓

調査計画について

・この夏の私の調査計画——二心き形
で、二の橋上で語り合おう、と提案した
い。まず去らぬしをから始めよ、とい
う意味で口火を切ることをお祈り下さ
い。
(1)九学全組合による本年度調査
に参加して、埼玉武田県三光庄のもとに
熊谷町の共同調査に参加。外木興夫氏
が吉田屋村紀勢、江江哲男氏がそのピン
ターたる町部、小生は町の味噌工業の
東条源次郎(下請)と、夫々社会学的に研
究。

(2)ついで、又一年度に小生の担当し
た熊谷熊谷村の調査(熊谷町との対々
ととの組合を、熊谷町から東武及漢東
改革問題を中心に取上げ)を準備。二
れは小生のみ、特に「村部」の宿題を担
當しつつ補充。

三教育大の社会学研究室(有賀・森田
小生等)の協力を本町並津原村、東武町
の調査に参加。共産テーマは、行政町の
成りとその発展発展の過程。熊谷農村地
帯の町部との相互依存関係とその発展)

森田氏担当し、それにともなう町部自体
の調査研究へ、吳有工場研究に併う共産
を念じ(小生担当)。勿論、両者共
町部等の内蔵は重なるファクターとある
二の真面目にのりても何案をしよう、
と二心で宿題のテーマと方法について

「第一町」に比較可能なものがあるいは現在
の測定方法による調査を行うべきだとい
う相田、山本、大塚三氏の主張に甘んじ
て賛成。しかし、村によりかすつ
異なる形をもつた改革前の社会構造を前
提条件として改革の動きを捉えること本
質を捉えるためと根本的要素をもち
突につき松原氏と同意見。大塚先生の言
われるような *reference* を構造の前提
は現在に於てなく、改革前後についても
区別があり、勿論現在に於けるような測
定の方法は不可棄ではある、他の方法
さなり全く不可能なわけではなく、また
可能なホキリの方法をくしてこれをもち
運行しなればならぬ。そして、二の
さうな、現在の前提となつてゐる調査、
及び現在に於ける構造的研究の分析を
行なうことは、測定的方法を適用するに
際しても、一層深く研究の中心に置るよ
うな視点、その範囲の調査、尺度などの

前提との関係に、一層厳密に調査を
くことを解しゆるものと考えます。日本
の社会は、その社会心理的な人間関係を
も、とりわけ大体的につくられた四凸の
上に築り上げられてゐると思ひます。
二心も理由を調査のせまうた今年
宿題としては、前時の研究会に賛成す
る次第です。

それは、別々には去年のSSM調査のよ
うな全国調査一丙方法を打つたのは、
しかもそれを各本場に共同してやるに
は、二心にも調査、調査指針の極目にお
たつてきめるわけですから、先ずそのた
めに、みんなで先令に討論をつくす時
費用水足厚であり、一紙資料にも、兼
計分析をみんなをたんに討論しつつ行
たのにも、それの必要です。もしその
ような前提条件がほしいのに運行すれば、
けつさよくか教育の策を打つて二心
なるおそれもあります。現在の条件の上
に、あせらずかまうつ論を聞いてゆく
べしと思ひます。

今は、熊も打つており、杖又個々の調
査計画もそれのほかにあつたこととして
前時に懸念くらひの懸念された中心テ
マを盛り二心と、二心に各目的の中心に

る研究を細か合せてゆくのが大なりと願
います。比較可能な資料を二のたぬ
より詳細な研究の種を以てするところ
その共同地に於ける東洋の條件への応じ
おし公認に首肯にすべきめかの如く感じ
られるよう存することに成つては、それこそ
とりかえしなつかぬ急務と願います。

(東京教育大学)

地方からの希望

中野芳彦

ひかつて「社会科教育」という科目を要
求して「社会科教育」(教育指導書)を
なるものに出席を命ぜられた、四〇日頃、
米人講師の教育を受けたこと大ありませ
そのとき若し専攻する社会科の指導書が
らばどの程度まで深く、又より中実であ
うかと思ひました。更に一度の経験に、
座席、何は指しておき掛けて行つたとい
つた座席の指導書が感ぜられぬといは、専
攻者の親善明に於いて失礼な由分です。於
心ある研究者の責務はなにかと思ひま
す。「村舎」で仙谷の大村の語りすのま
ゆられを以て「社会科」に關する討論會を持
つ由、従来の座席形式を一新せられた
という事が大いに賛成したものと存しま
す。座席形式を一新せられたこと一年に三三
日でも勉強、E.H.E.の如き講習會(名
前は勿論でもよい)を村舎で持ち、座席
注から新知識を注入して頂くといつた機
会を与えて頂きたいのです。これは特に
研究會が大学卒業後も研究會に在り、在
るべき研究會を促進に就くといつたこと
を血ちれたに成し、経済的事情の許さぬ

まに、不本意ながら自ら進んで退任し、そ
の日から社会科に關しては全くお山の火
將、絶たれたため編纂を日々費ひねむり
なかつた私たちが心からの希望です。座
席教育、編纂教育といつた、いかに
地位にも教育がつかぬもの、昔の座席のシ
ステムを、二大は私座席でよいの
ではないでしょうか。それと同じ程度で
私座席の調査技術を高く概念を求めて頂く
ことをも兼ねて民間調査を何計画願う二
にも結構です。願するに「村舎」が討
従来の座席の様に村舎に成されれば座席
として私座席を願うて頂くのでは、特
場合によつては、生徒として此のつけ、
ドシヤツケア願う、そつた後勤をも併
せ持つこととお願ひしたりのです。

ひかつて「社会科教育」という科目を要
求して「社会科教育」(教育指導書)を
なるものに出席を命ぜられた、四〇日頃、
米人講師の教育を受けたこと大ありませ
そのとき若し専攻する社会科の指導書が
らばどの程度まで深く、又より中実であ
うかと思ひました。更に一度の経験に、
座席、何は指しておき掛けて行つたとい
つた座席の指導書が感ぜられぬといは、専
攻者の親善明に於いて失礼な由分です。於
心ある研究者の責務はなにかと思ひま
す。「村舎」で仙谷の大村の語りすのま
ゆられを以て「社会科」に關する討論會を持
つ由、従来の座席形式を一新せられた
という事が大いに賛成したものと存しま
す。座席形式を一新せられたこと一年に三三
日でも勉強、E.H.E.の如き講習會(名
前は勿論でもよい)を村舎で持ち、座席
注から新知識を注入して頂くといつた機
会を与えて頂きたいのです。これは特に
研究會が大学卒業後も研究會に在り、在
るべき研究會を促進に就くといつたこと
を血ちれたに成し、経済的事情の許さぬ

芥り版

以上「村舎」の活動の概に於いて、村
方に住む者の甚だ疎隔手な希望を述べ
せて頂きました。(新野大等)
戸部 二の御座席の希望に合はぬこと
感じますので金費各々の考えに於ける
研究會と云ふものを更に諸君の御座席
までおまかせ下さい。又同じような座席
までの金費の運送をどうおまかせ下さ
るかに願ひます。天福の編輯に於ける

「どうしようもなつてしまつてお前ら等を
知らんまに成る」に起り母体は幼少の
徒生なでつづやいていた。大正五(東大
新野)
内灘でのオーネの座席次第に成る人
心海をうはつち。富士山ろくは土に生
る人が土のふさははなされた。
今二の箇の座席は大きくを編をこびま
うしてゐる。大等でしかおかつたパン
パンアメリカが突が突に歴史の民の如
にありわれ、是等の所に父祖伝承の工
が水成に成るべく。歴史から未来へ
前をむりて形を成るべく。歴史から
なかくはなれたい。

(編集者)